

EXAMINATION | 高校入試で重要な鍵となる「調査書」に迫る！



新潟県における公立高校の入学試験では、「学力検査」と「調査書」によって合否が決定します。「調査書」と「学力検査」の比重は、高校や学科によって異なりますが、一般的には進学校の普通科では3：7、工業科、商業科などの専門学科では4：6や5：5に設定されています。

いずれにしても、志望校の合格に向けて決して軽視できないのが、この「調査書」です。この調査書の取り扱いも各都道府県によって異なりますが、新潟県では中学1年生から中学3年生までの全学年における評定（成績）が対象となります。ですから、中学校に入学した日から高校入試の競争はスタートしていると言っても過言ではありません。

この「調査書」、新潟県では令和8年度入試から大きな変更点がありました。これまでは、「各教科の学習の記録（観点別評価）」「行動の記録」「出欠の記録」「特別活動の記録」「総合的な学習の時間の記録」「総合所見」といった記入欄がありました。それらの一切が削除され、「各教科の学習の記録（評定）」のみが記載事項となりました。つまり、通知表に記載される評定のみが「調査書」の判定基準であるということが明確化されたのです。

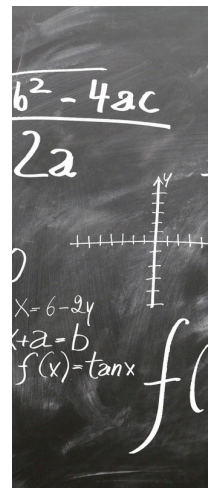
ABILITY+ | 「解けない」が能力を高める。

人って不思議なもので、「できること」を好みます。「できる」は楽しさや自信に繋がりますから、1人で学習するときにも自然と解ける問題を選んでしまっているものです。一方で、「できないこと」はつまらなさ、不安、不満に繋がるため、自分から進んで苦手な問題やレベルの高い問題に取り組むことには、どうしても後ろ向きになります。

もちろん、習熟度を上げるために既に習得済みの問題・内容を繰り返し学習することにも意義はあります。しかし、つまらなさ、不安、不満といった感情に流されて、「できないこと」に目を背けていては、現状以上の能力・成績を獲得することはできません。

特に、算数・数学という教科は『思考すること』自体が学習のメインとなります。問題で与えられている情報を整理し、どのような解決方法があるのかを思考する。その過程こそが算数・数学という教科の目標であり、学習そのものなのです。

「解ける・解けない」だけに感情を支配されるのではなく、解くために費やした時間や苦勞を大切にしたいと思えます。そして、様々な方法を駆使して試行錯誤する力こそが、これまでの自分を打破し、得点力アップや志望校合格を導く原動力となるはずで



INFO | 空き枠を活用した「特別補習講座」をスタート！



当塾の目標は、塾生の皆さんの願いをひとつでも多く叶えてあげることです。そのため、日々の指導においても、塾生の皆さんひとりひとりに適した授業を実施しています。

しかし、週1回の80分授業には限界もあり、学校の進度に沿った学習内容の習熟に充てるだけで、授業の大半が費やされてしまうのも事実です。きっと、塾生の皆さんや保護者の方には、「高校入試の対策を充実したい」「応用問題に挑戦したい」などの多様な願いや希望があろうかと思えます。

そこで、当塾の授業の「空き枠」を活用して、80分のマンツーマン授業が2,500円でご受講いただける「特別補習講座」をスタートしました。どんなご要望にもお応えしますので、ぜひご活用いただければと思います。